

有鹿小学校・サマースクールで、児童と一緒に三角テント設営訓練

2016年7月26日

7月26日の午前中、有鹿小学校のサマースクールで、子どもたちと一緒にブルーシートを活用した三角テントの設営訓練を行いました。有鹿小学校のサマースクールで体験的防災減災訓練を選択した5年生と6年生の児童で（合計10名）と実行委員になっている保護者の皆さんと先生でした。海老名災害ボランティアネットワークからは3名（橋本代表他2名）が参加しました。

体育館に集まった児童は、最初に三角テントを作るときに必要なロープワーク（さまざまなロープの結び方）を体験しました。ロープの結び方はいろいろあるのですが、なかなか上手にできないで何度もチャレンジしている子、すぐに出来て他の子に教えている子など様々でした。

誰かが「地震が起こった」という大きな声を出しました。子どもたちは、体育館の中で安全と思われる場所で、頭を守り、身を低くしました。3分後、「揺れがおさまりました」という声がありました。「シェイク・アウト訓練」が終了しました。合格です。

次に、2チームに分かれて、それぞれ三角テントを設営してみました。皆で協力して三角テントが出来ました。自分たちが作ったテントに入って、みんな楽しそうに、はしゃいでいました。



災害が起こった時、家が壊れたりしたときに、家にあるブルーシートや物干し竿を活用して三角テントを作れば、人が休んだり・着替えたり、物を置いたりできます。こうしたテント設営の体験によって、災害に対する関心が高まると同時に、不自由な避難生活の中でも、ちょっとした工夫で生活の改善ができるということが分かったと思います。地震はいつ起こるかわかりませんが、東日本大震災、熊本地震と大きな被害が出ています。地震に対するさまざまな備えを、それぞれの家庭で子どもたち一緒になって実行して頂ければ、こうした訓練は無駄にならないと思います。